

令和7年度 大阪府立摂津支援学校 第1回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和7年6月23日(月) 10:00～11:50
2. 場 所 本校 会議室(中高等部棟2階)
3. 出席者 〈学校運営協議会委員〉
荒木 寛巳(森ノ宮医療大学教授) 大矢 優子(摂津市教育委員会 教育委員)
松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津 企画部担当課長)
政森 景子(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)
林 義平(摂津市鳥飼上自治会 会長) 七瀧 史(本校保護者)
- 〈摂津支援学校〉
校長(村上) 教頭(竹内・岡崎) 事務長(川野) 首席(岡村・三牧・坂部)
首席兼教務部長(日高) 部主事(新地・沖・鮫島)
- 〈傍聴者〉 なし

4. 年間テーマ及び協議事項

主な内容 ①今度の学校経営計画について ②授業見学 ③今年度の使用教科書について

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行: 岡村] [記録: 坂部]

・配付資料確認

・校長あいさつ

教育の重点や教育計画の説明をする。ご忌憚のないご意見をお願いします。

・学校運営協議会委員及び事務局の紹介

・会長、副会長の選出

昨年度と引き続き、会長: 荒木様 副会長: 大矢様

(2) 学校より報告及び協議 [進行: 荒木会長] (※質疑応答を併せて記載)

①今年度の学校経営計画について[担当: 村上校長] 資料⑤、パワーポイント

「2中期的目標」については承認をお願いしたい。あわせて重点目標の説明をする。

◆4つの柱を基に、「チーム摂津」～540名は一丸となって～小中学部の児童生徒が増えている。

1 安全・安心な学校をめざして

児童生徒、保護者、教職員、すべての人に安全・安心であることをめざす。

○児童・保護者にとって: 人権、居場所がある、学校の取り組みがわかる等

○教職員にとって: 人権、居場所がある、働き甲斐、同僚性の高い職場

2 自己肯定感・自己有用感を高める教育

ありのままの自分を認める。誰かに必要とされているという感情を養う等。

3 魅力ある授業づくり

知的障がい支援学校としての専門性と指導力の向上をめざす。

4 摂津支援は一つ～学部間のつながりを大切に～

交流(児童生徒、教職員)、系統的な指導

◆ 2 中期目標

1 児童生徒、保護者、教職員、地域にとって安全で安心な学校づくり

(1) 児童生徒・教職員の人権が配慮された教育活動を推進する。

いじめや人権侵害事象が起らない学校づくりを進める。ワークショップ型の教員研修を含めた研修を年3回以上実施する。学校経営推進費で設置された中庭の遊具を活用し、より多くの児童が遊具で体を動かす時間を設定し自ら体を動かして遊び、達成感を得られるようにする。

(2) 校内支援活性化

支援の強化。校内支援の担当教員をR6は3名⇒R7は5名の体制に組織替えを行った。

担任、関係機関との連携。キーワードは早期発見、早期対応。

(3) 個人情報保護、食物アレルギー対応、医療的ケアなどに関する危機管理意識の向上

アレルギーの対応が変更。アレルゲンがあれば原則喫食禁止（府の方針）

泊を伴う行事でも適用。アレルギーチェックの徹底。

(4) 防災

実践的な訓練、避難場所の確保（通学バスの運行中の避難場所）、引き渡し訓練（バスなし、バスあり、車の乗り入れあり等、様々な方法での実施を検討）

(5) 働き方改革

R4はストレスチェックの総合健康リスクが100を下回っていたが、R5以降は100を超えている。R4まだコロナ対応が残っており、行事等の縮小があったため授業研究などに時間を充てることができていた。他校も同じ傾向がある。指標を下げていきたい。同僚性を高める（摂津サークル、校長室の解放）、ノー会議デーを今年度は45日設定、職員会議を1回減などゆとりのある行事予定を設定。

(6) 保健指導

歯磨き指導の充実、栄養教諭、養護教諭の入り込み授業、HPの活用や給食の写真を保護者が見られるようにしている。

(7) 自己肯定感・自己有用感を高める教育の推進

2 知的障がい支援学校としての専門性・指導力の向上

(1) 学校教育自己診断の「授業力」で保護者の肯定的回答を90%以上、「学習評価」で85%以上をめざす。

(2) TTの活用とフィードバック、シラバスの振り返り（様式3）の作成の90%以上をめざす。

(3) ICTの活用（授業、校務）

ICT教材の研修、校内支援システム（SATT賢者）の活用

(4) OJT環境の充実

メンターとメンティの環境設定、学部間連携（教員が学部を超えて一日活動して理解を深める）

3 キャリア教育を柱とした、小学部・中学部・高等部の連携を深め、より一層の一貫教育の実践

(1) キャリア教育（小学部段階から）

(2) 進路指導の充実

施設の協力、卒業生、その保護者の話を聞く機会の設定。学部卒業時の多様な進路選択（各学部）の情報発信

(3) 卒業後すぐでなくても

(4) 教員の学部間交流

4 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築

(1) 学校間交流

新たに2校増加予定、とりかい高等支援学校との交流の継続（小1）

とりかい高等支援学校の昼の放送に摂津の児童生徒がリクエストする取り組み

(2) スポーツの充実

高等部スポーツ同好会は今年度からスポーツクラブに変更

(3) 地域行事への参加 淀川わいわいガヤガヤ祭りやロータリークラブとの交流

(4) 学校HPの充実

課題である情報発信不足の改善のため、日々の学習活動をブログに掲載していく

5 新しい教育課題・組織課題への対応

(1) 大阪関西万博 「いのち輝く未来社会のデザイン」と連動した学習

(2) 高等部教育課程の再検討 職業コースの新基準

(3) 三島ブロック会議の幹事校

《質疑応答》

【委員】 学校経営計画はよく練られている。そのまま取り組んでほしい。コロナの影響なのか保護者、教職員同士がうまくつながれない。例えば、失敗しても大丈夫という心理的な安心感があればもっと目標達成に近づくのでは。

【委員】 校長の思いが良く伝わる。「居場所」が特に印象に残る。児童生徒だけでなく、教職員に居場所があるということがこの計画達成に影響すると感じる。素直に言える、改善できる関係性があることが良い学校づくりにつながると感じる。

【委員】 学校運営協議会には初めての参加で学校経営計画も初めて見る。今年から「就労選択支援」という新しいサービスが始まる。今後支援学校にも関係する。また、校長室開放とはどんな感じなのか知りたい

【教員】 休憩時間 15:25～(夏季休業中は12:30～)、教職員が自由にお昼ご飯を食べにくる形で、昨年度は延べ30名参加した。今年度も同じ形で行う。

【委員】 安全安心について、産業界では7月1日から一週間全国安全週間がある。学校にはあるか。

【教員】 6月に1週間程度、定時に帰る等、教職員に対する労働衛生安全週間がある。

【委員】 労災事故はどれくらい発生しているか。会社では月末締めで管理している。(無事故1000日目標等)

【教員】 教職員は月1回程度の怪我が発生している(公務災害)。細かいケガは事務室までは届いていない。

【委員】 怪我や事故0にもっていくための取り組みはあるか。

【教員】 気を付けるように周知しているが、突発的に起こる場合は難しい。環境整備は行っている。

【教員】 産業医に学校巡視をしてもらい危険個所の指摘をしていただいている。

【委員】 企業ではヒヤリハットを重要視している。これの撲滅が課題。参考にしてほしい。

【委員】 4つの柱どれも大切。特に「摂津支援は一つ」が大切。学部から学部への接続をスムーズに行ってほしいと多数の保護者が思っている。具体的には、小1・小2は幼稚園や保育所等からの円滑な移行のため、授業開始の挨拶をわかりやすく「足とんとん背中はぴっ」のかけ声で行っているが、それが6年生まで続いている。この方法にはメリットはあるが中学部からは別の形に変わるのでせめて6年生は中学部の挨拶に寄せてはどうか。小6から中1への接続をスムーズに行っていただきたい。

【委員】 昔から支援学校では、保護者が小から中や、中から高へ行きたくないという思いが強かった。保護者にとって学部の移行には大きな壁がある。見えない壁をなくしていき、子どもたちがスムーズに移行できることが理想。学校経営計画について承認いただけるということで満場一致。

【教員】 小学部の挨拶については首席等連絡会で話題にしたところ。検討していきたい。

② 授業見学

小学部⇒中学部（職業・木工他）⇒高等部（ワーク・委託他）

会議室で高等部職業コースによる喫茶サービス

③ 今年度の使用教科書について

【各部主事より】

○小学部

生活科の文科省著作教科書（星本）を採択 星本1 基本的な生活習慣やルール（1・2年） 星本2 人との関り、集団生活（3・4年）星本3 地域、公共施設など（5・6年）段階的に学習を進められる。

○中学部

国語：言葉図鑑 社会：日本の歴史 職業・家庭：星本4は働くということに関する内容を分かりやすく説明し、やってみようのページでワーク学習できる。

○高等部

国語、社会、理科で星本を採択。使いやすく、わかりやすい内容。

職業コースが使う場合は敬語の学習があればよりよいと感じる。

高等部1年生の教科書配付は実態を確認してから5月中旬頃に行っている。

【教員】星本とは文科省著作の教科書、支援学校にあわせて作られている。教科が増えて社会、理科、生活科が新しく作られた。

【教員】星本は昔からあるが星本にも指導書ができた。

【委員】教科書の検討、3校の学校運営協議会に参加しているがどの学校も星本が増えてきている。グループによっては教科書だけに頼らず子どもの実態に合わせて授業を行っている。昨今実態に合わせた教科書を活用できてよい傾向だと感じる。

（3）まとめ

【委員】毎年、授業見学させていただくのはうれしい、元気をもらえる。今後また新しい支援学校が開校する。課題は教員不足である。専門性のある教員の確保が必要。今回の思いが詰まった学校経営計画が1年後に達成できれば子どもたちにプラスになるだろう。摂津支援が一つになることは大切。地域、PTA、保護者の力があってこそ。すぐにではなく、継続していくことが大切。学校自己診断の結果を3回目に確認する。いろいろな立場の方々の意見が必要。学校現場はどうしても視野が狭くなってしまう。学校の中にいたときは見えなかったが、現在、教員養成の立場から見るとわかることがある。委員の皆様には厳しいことも言っていたきたい。また、PTA代表は保護者としての意見をどんどんだしていただきたい。2回目以降の学校運営協議会を楽しみにしている。

【教員】教職員の目線は少しずつ狭まっているかもしれないと、このようなご意見をいただく場で実感することがある。本日いただいた貴重なご意見をこのメンバーだけではなく教職員に伝えていき、どのような方向を向いて取り組んでいくのかを連携しながら学校づくりをしていきたい。学校に対する期待を感じる。聞きたいことや知りたいことがある場合は気軽に声がけいただきたい。

（4）諸連絡

【教員】本日の記録及び委嘱状を後日送付予定のためご確認を。次回は10月28日（火）